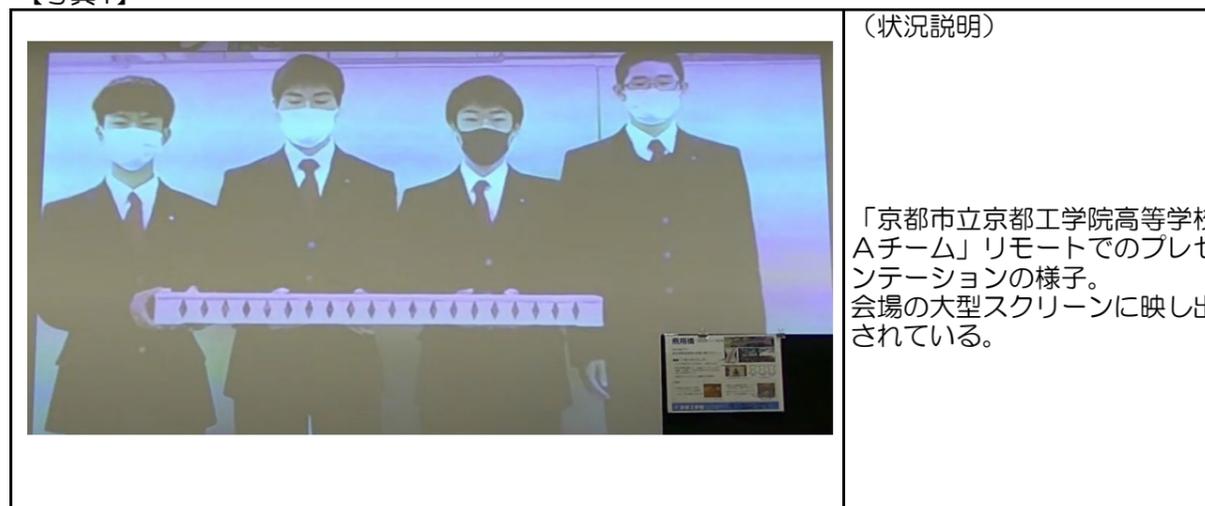


<活動報告書>

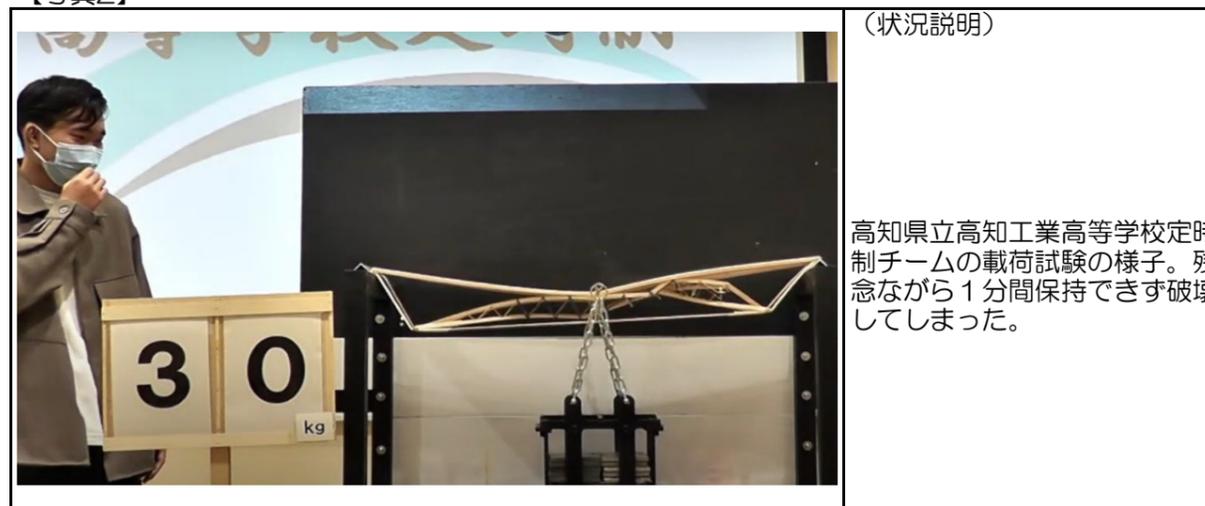
フリガナ	コウコウセイキョウリョウモケイコンテストジッコウインカイ	
①団体名・学校名	高校生橋梁模型コンテスト実行委員会	
②担当者	フリガナ	
	氏名	
	所属 役職	高知工業高校教諭・事務局長
	TEL	
	E-mail	
③申請テーマ	第16回高校生橋梁模型コンテスト	
④活動期間	令和4年 3月 ~ 令和4年12月	
⑤活動内容を記載	<p>高知県高知市のオーテピア5F高知みらい科学館に於いて令和4年11月23日～12月3日の期間に参加チームによる「パネル展示」を行い一般観覧者に「人気投票」を行った。同じく4Fホールにて令和4年12月3日(土曜)13:00～16:30にプレゼン、翌日4日(日曜)9:00～12:20に載荷試験・表彰式を行った。8校から13チームが参加し日ごろの研究の成果を出し合った。結果は下記の通りである。</p> <p>優勝 : 岡山県立笠岡工業高等学校 準優勝 : 京都市立京都工学院高等学校Aチーム 奨励賞 : 京都市立京都工学院高等学校Cチーム 強度賞 : 群馬県立桐生工業高等学校Aチーム デザイン賞 : 京都市立京都工学院高等学校Bチーム 軽量賞 : 兵庫県立兵庫工業高等学校Bチーム 人気賞 : 山形県立山形工業高等学校 審査員特別賞 : 群馬県立前橋工業高等学校 群馬県立桐生工業高等学校Bチーム 和歌山県立和歌山工業高等学校 高知県立高知工業高等学校定時制 遠くは群馬からのリモート参加もあった。</p>	
⑥活動費用合計	582,620円	
⑦別紙説明資料の有無	ある	

<活動状況写真>

【写真1】



【写真2】



【写真3】



第16回高校生橋梁模型コンテスト実施報告

1 開催日時

令和4年12月3日(土曜) 13:00~16:30 プレゼン
令和4年12月4日(日曜) 9:00~12:20 載荷試験・表彰式
令和4年11月23日~12月3日 パネル展示・人気投票

2 会場および住所

- (1) 会場 オーテピア4Fホール(プレゼン・載荷試験・表彰式)
オーテピア5F高知みらい科学館(パネル展示・人気投票)
- (2) 住所 高知県高知市追手筋2-1-1 オーテピア

3 主催および後援

- (1) 主催 高校生橋梁模型コンテスト実行委員会
- (2) 共催 高知みらい科学館、高知県橋梁会、高知県建設系教育協議会
- (3) 後援 一般社団法人戸田みらい基金、一般社団法人高知県建設業協会
一般社団法人高知県測量設計業協会、高知県教育委員会
NHK高知放送局、高知新聞社、RKC高知放送局
- (4) 協賛 西日本高等学校土木教育研究会

4 審査員

審査委員長： 右城猛(高知県橋梁会会長)
審査副委員長： 高橋信裕(高知みらい科学館館長)
審査委員： 西川和正(高知県測量設計業協会会長)
久保田 明(高知県測量設計業協会副会長)
横田 譲二(高知県橋梁会)、岡林 弘憲(高知県橋梁会)
大内 雅博(高知工科大学教授)
赤塚 慎(高知工科大学准教授)
北村晋助(高知建設系教育協議会副会長)

5 参加校

群馬県立桐生工業高等学校(2チーム)
兵庫県立兵庫工業高等学校(2チーム)
山形県立山形工業高等学校
岡山県立笠岡工業高等学校
群馬県立前橋工業高等学校
和歌山県立和歌山工業高等学校
京都市立京都工学院高等学校(4チーム)
高知県立高知工業高等学校 定時制
株式会社 第一コンサルタンツ(表彰対象外参考出展)
※順不動 計8校13チーム

6 結果

優勝	：岡山県立笠岡工業高等学校
準優勝	：京都市立京都工学院高等学校Aチーム
奨励賞	：京都市立京都工学院高等学校Cチーム
強度賞	：群馬県立桐生工業高等学校Aチーム
デザイン賞	：京都市立京都工学院高等学校Bチーム
軽量賞	：兵庫県立兵庫工業高等学校Bチーム
人気賞	：山形県立山形工業高等学校
審査員特別賞	：群馬県立前橋工業高等学校 群馬県立桐生工業高等学校Bチーム 和歌山県立和歌山工業高等学校 高知県立高知工業高等学校定時制

7 課題と成果

1. 最高強度の40kgへのチャレンジチームが9チームと大幅に増え、成功も6チームと技術度の発展がみられた。
2. 構造・デザインも工夫を凝らしたチームが増え、確実にコンテストがレベルアップしていると、審査会から講評をいただいた。
3. 審査の時間に余裕を持たせたので、ゆっくり審査ができると、審査員からは好評であった。
4. YouTubeにアップし行った人気投票はおおむね好評だった。
5. 映像の配信は大きな問題はなかったが、音声、特にZoomの音声が聞き取りづらかった。器機の準備が必要である。
6. 現地参加チームは6チームであったが、会場的には余裕がなかったように感じた。現地での参加も増やしたいので、会場の使い方にも工夫が必要である。

8 今後の展開

1. プレゼンテーションは予め制作した動画にして、質疑応答のみを行う形にする。動画は同時にYouTubeにアップし人気投票を行う。
2. プレゼン動画は事前に審査員に見てもらい、質問項目をだしてもらい、事前に各チームに伝え、解答を考えてもらう。
3. 次回第17回は2024年1月21日(日)の1日開催の予定。午前中にプレゼン・質疑応答、午後には載荷試験・審査の流れで現在調整中である。
4. 全土研の後援か共催を得られるよう働きかける。